



187 NW1 2NJ vol.2



For adult only



mechi

Contents

陷落	3
be there	30
好奇心	39
きみをつれて	58
束縛	121
愛まま	132
jealous dog	142

陷落

僕はいわゆる、ふたなりだ。

半陰陽、両性具有、呼び方はさておき、とにかくその事実を全く歓迎できずに、これまでひた隠して生きてきた。

生まれつき、望んでもいなのに女性の性器が睾丸の奥に潜んでいた。

生まれた時はまだ発達していなかつたのか見逃されたようだ、籍上の性別は見た通りの男。

男として育つてきたし、自分は男であるという自覚もハッキリ持つていて。

女性器があることに気づいたのは、随分遅かつた。

16歳くらいの頃だつたか、クラスメイトと派手に取つ組み合つて喧嘩した際、相手の膝がうつかり股間にヒットした。

それは壮絶に痛み、家に帰るなり股間がへこんだりしてないかと不安で不安で鏡で股間を覗いて、あれほど激痛を一瞬で忘れてしまうほど驚いた。

幸いにも損傷やダメージは見受けられなかつたけど、

なんとそこにはうつすらと縦に筋が刻まれていて、恐る恐る左右に広げてみると、性の対象として恋い焦がれるべきものが、あつたんだ。

「女の、プツシード…」

ソレが何か認識できた途端、あまりの驚きにしばらくべつどに突つ伏すことしかできなかつた。理解が及ばず、その事実を素直に受け入れることは困難だつた。よくもまあ今まで気づかなかつたものだ…それにしても、これは一体何なんだ…!?

パニックが落ち着いた後は、恐怖に襲われた。

噂に聞く生理は来るのか?

その場合、僕も妊娠が可能なのか?
であれば、うつかり誰かに知られたら本当にまずいことになる。

女性器があるというだけで、人生の危険レベルが100倍にも跳ね上がつた気がして慄いた。

それから猛勉強を重ねて医学部に入ったのも、表向きは医者を目指すためだけど、本当は自衛のためだつた。